

平成30年2月

普及活動報告

～地域農業を担う新しい農業者が誕生 ～亀岡市で実践農場修了式

(亀岡市：5日)



普及センター所長から研修修了証書の交付



決意表明をされる研修者

普及センター所長、亀岡市農林振興課長から研修生に修了証書の交付が行われた後、技術指導者、後見人、関係機関からの激励の言葉と修了生の決意表明がありました。

激励の言葉として、「今後一人立ちしていくには売り上げを増やすことが必要」「地域活動にも貢献してくれている。これからも頑張ってもらいたい」等がありました。研修者は「まずは地域に溶け込むのが目標」「計画を立てて売り上げを増やしていきたい」と決意表明をされました。普及センターは今後も経営の安定に向けて支援を行っていきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 11名

南丹管内の実践農場設置数54ヶ所、うち南丹市22ヶ所、亀岡市20ヶ所、京丹波町12ヶ所（平成30年1月現在）

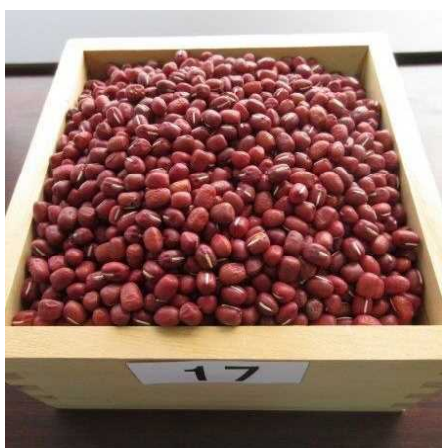
京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



厳正な審査を行う



普及センター所長賞に輝いた小豆

厳しい環境のなか栽培者の技術が光る ～瑞穂大納言小豆品評会を開催～

(京丹波町：6日)

29年産の小豆は、秋の日照不足や多雨・台風等により、例年と比較して小粒で、しわや色ムラが目立つ傾向にありましたが、23点の出品がありました(28年度は26点)。

審査は、瑞穂大納言の特徴である大粒・俵型・色の鮮やかさを基準に選出を行いました。入賞された5名は、排水対策や病虫害防除等を適切に行われており、適期作業の大切さを再確認できました。

入賞された方には3月7日に行われる黒大豆・小豆生産者大会において表彰を行います。普及センターは、これからも高品質な小豆生産に向け支援します。

場 所 JA京都瑞穂支店

出席者数 15名

小豆生産量 (H29) : 4,469kg

京丹波町農業技術者会瑞穂地域部会は京丹波町、JA、農業共済、局、普及センターで構成。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



審査委員による厳正な審査



最優秀賞の黒大豆

～大きく丸い和知の黒大豆「和知黒」が 集合～黒大豆求評会が開催

(京丹波町：7日)

今年度の黒大豆は7月下旬からの高温や10月の台風などの影響が心配されましたが、求評会には生産者の優れた栽培技術により作られた黒大豆34点が出品されました。黒大豆の特徴である粒の大きさや形に重点を置き、出席者全員での一次審査の後、普及センター職員を含む審査委員6名で厳正な審査を行い、特別賞5点を選出しました。

審査長である普及センター所長は「今年は難しい栽培条件の中であったが、素晴らしい出品物が集まった。生産者の技術の高さが伺える。さすがブランド産地である」と講評しました。本審査会の結果を受け、生産者の意欲増進と高品質栽培につながることを期待します。

場 所 JA京都和知支店

出席者数 25名

平成29年度京丹波町の黒大豆栽培面積は60.9ha、JA京都和知支店への出荷量は8,101kg（前年度7,550kg）

求評会出品点数 29年度34点 28年度30点 27年度29点

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



隊長があいさつ



個別相談会の様子

京都丹波農業応援隊が事業説明会を実施 (全域：8日)

小規模な農業者でも取組可能な事業や、農業ビジネス、6次産業化、集落営農に関する事業の趣旨・要件、商工会が行う各種相談会・展示会の説明等を行いました。その後を実施した個別相談会では、16の個人・団体から相談が寄せられ盛況な説明会となりました。

個別相談で、多くの方がチャレンジ事業申請の意向を示され、30年度事業応募に向けて伴走支援を開始します。普及センターでは、引き続き応援隊員間で連携を取りあい、農業者を支援します。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 94名

小さな経営革新チャレンジ支援事業7件、地域の食育めばえ事業3件、農地集積に関する相談3件、農企業者育成事業、京都6次化ステップアップ事業等個別相談。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



摘心試験の結果等を説明



生産者から栽培の工夫等を出し合う

～摘心試験結果の紹介と技術の共有～ 黒大豆研修会を開催

(南丹市・京丹波町：13・16日)

普及センターから、今年度を実施した黒大豆摘心試験の結果を報告しました。また、栽培のポイントや乾燥方法について説明するとともに、出席した生産者から昨年栽培していて気付いたことや栽培上の工夫等を出し合い、出席者全員で共有することで、栽培技術の向上を図りました。

参加者からは「30年度産では摘心をしてみたいので、もっとデータが欲しい」「これからも摘心をしていきたい」という声がありました。また生産者それぞれの乾燥や施肥の方法を共有することができました。今後も摘心栽培のデータをとるとともに、生産者が行っている栽培技術を収集、共有し、栽培技術の向上を図っていく予定です。

場 所 2/13 JA京都園部支店
JA京都日吉支店
2/16 JA京都丹波支店
JA京都和知支店

出席者数 109名

平成29年度 南丹管内黒大豆作付面積 103ha

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



新役員4名の紹介



研修会の様子

～ICT活用を考える～南丹地域 農業士会総会・研修会を開催！

(全域：14日)

総会では平成30～31年度の新役員4名が承認され、新会長から今後の農業士活動について抱負が述べられました。また、研修会は「施設園芸でICTをどう使うか」をテーマに行いました。その中で、ハウス内の気温データを基に収量増を検討する場合、気象測定機器と通信費がかかるため、コストを抑えたインフラ整備が課題であると報告がありました。

農業士からは、ICTを活用した農業について、「先人の技術の蓄積など暗黙知を数値化してほしい」「ナスの土壌水分管理ができれば」などそれぞれの経営を見据えた意見がありました。普及センターでは、施設内の温度管理など身近なことからICT活用をできればと考えており、農業士による研究会を立ち上げる取り組みなどを積極的に支援していきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 37名

現在、南丹地域農業士会は37名（指導16名、女性12名、青年9名）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告

設備投資額1億円の農業青年に学ぶ

(全域：15日)



1,200円/kgのミニトマト生産現場



巨大なライスセンター

大阪府の農業青年クラブ員が経営する施設・ほ場を視察しました。同年代の経営者が1億円近い設備投資をしている事実に触れるとともに、作物の選定や規模の選択について「他社との競合」「需要の伸び」「売り先への安定供給」「明確な優位性」などが重要であることを学びました。

クラブ員たちは「補助金を使わずにここまでやれるんだ」などと驚くとともに、「一桁上をめざします」など前向きな発言がありました。普及センターは、青年クラブ活動や個別の経営指導を通じて農業青年の経営向上を支援しています。

場 所 大阪府大東市

出席者数 16名

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告

～今年度の反省と次年度の作付けに向けて～ ～亀岡市西部地区で農談会を実施

(亀岡市：19～27日)

水稻の今年度の生育状況や品質についてJAから報告され、次年度の栽培のポイントを確認しました。また、普及センターから「京の輝き」の導入の有利性と注意点や水稻除草剤の使用に関する注意点等について説明しました。

写真無し

「京の輝きは苗の販売がないと取り組みにくい。次年度の栽培を検討したい」

「雑草の芽が代かき後から動き出すとは知らなかった」「どうしても水持ちが悪くて困っている」「カメムシ防除を十分しているつもりだが被害が減らないのはなぜか」など、様々な意見が出され、その対策等について説明しました。普及センターは今後も適切な栽培管理と安定生産に向けた取り組みを支援していきます。

場 所 亀岡市内13ヶ所

出席者数 90名

農談会は南丹市園部町でも実施。(2/22～26)

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告

～よりよい南天を生産するために～

JA京都花き部会日吉支部研修会

(南丹市：20日)



栽培ほ場でせん定

研修会では、JA京都日吉支店が今年の概況を説明し、普及センターからせん定方法の講義を行いました。その後ほ場に出て、古い枝、細くて弱い枝などをせん定し、樹勢回復・収量確保のための実習を行いました。

参加者からは、「株分けはどのように行うのか」「種から栽培したら商品になるまで何年かかるか」等の質問が出され、栽培に対する意欲の高さが見えました。今後、普及センターはJAと協力しながら、品質の向上、面積の拡大などを支援していきます。

JA京都花き部会日吉支部：21名、栽培品目：小ギク、アスター、トルコギキョウ、南天、花木等。
29年度南天販売額：約30万円（見込み）

平成30年2月

普及活動報告

～儲かる農業を目指して～若手農業者と 専門農家が交流

(亀岡市：23日)



普及センター所長の講演

普及センター所長から「がんばれ若手農業者」と題して、管内の先進的な経営者の事例を紹介しながら、若手農家と地域の受け入れ農家に期待することを講演され、その後若手農家と専門農家や関係機関との情報交換が行われました。

講演の他、JA青壮年農業経営者クラブや亀岡市農業経営者クラブ、4Hクラブから活動紹介と勧誘があり、若手農業者が若手同士や専門農家と交流し輪を広げていくことのきっかけとなりました。普及センターは今後も若手農業者の経営を安定、発展させるため支援していきます。

場 所 玉川楼（亀岡市）

出席者数 55名



農業経営者クラブからの勧誘

本会は亀岡市再生協議会担い手部会が主催して開催。
平成22年から開催し今回が8回目。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



実肥の施用方法について説明



生育状況を確認（低温の影響で遅れている）

～小麦新品種「せときらら」の研修会を開催～実肥の施用時期と方法について説明 (南丹市：27日)

南丹市園部町では3集団の約13haで、今年度から奨励品種になったパン用品種である「せときらら」を栽培しています。せときららの栽培には品質向上のための実肥施用が必要であり、新たな作業が加わるため、肥料の経費や人員・日程の確保が求められます。この研修会では、実際の実肥の施用時期や方法と赤かび病の防除について説明を行いました。

研修会では「尿素を効率的に溶かす方法は」「溶かす湯の温度はどのくらいが適当か」など様々な質問が出されました。実肥施用の適期の判断には出穂期の確認が重要であるため、普及センターでは、JA及び生産者とともに現地を巡回し、出穂期の把握について支援を行います。

場 所 園部町大西
出席者数 15名

平成30年産管内の小麦栽培面積は約38ha。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年2月

普及活動報告



調理の説明

～亀岡の「春の料理」を伝承～おばちゃん の亀岡ふるさと料理塾・春の塾

(亀岡市：28日)

行事食研究会が、「おばちゃんの亀岡ふるさと料理塾（春の塾）」を開催し、地元産の食材をふんだんに使った「春の料理」を伝承しました。テーブル毎に会員が付いて、「花菜のからし和え」「鱈の煮付け」「蛤のおすまし」等の5品の実習と「甘酒」づくりの実演を行いました。

「甘酒に関心があって参加した」「塾に来るようになってレパトリーが増えた」などの声がありました。今後も伝承活動や食育活動が活発に行われるよう、普及センターは行事食研究会の活動を支援します。

完成した5品



調理台毎に試食

場 所 ガレリアかめおか
出席者数 35名

料理塾は平成17年に始まり、今年で13年目を迎える。年間5回開催。郷土食の伝承技能登録者が4名、きょうと食いく先生が1名在籍。

京都府南丹農業改良普及センター